

川崎市市制100周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェア実行委員会
第8回 市制100周年幹事会 摘録

日時：令和6年3月12日（火）15：00～17：00

場所：川崎市役所第4庁舎4階第6・7会議室

出席者：幹事長 川崎信用金庫 浅岡部長

副幹事長 富士通株式会社川崎工場 松本シニアマネージャー

幹事 川崎商工会議所 田尻主査（代理出席）

川崎市PTA連絡協議会 浦山会長

かわさき市民放送株式会社 大西社長

社会福祉法人川崎市社会福祉協議会 荻野課長

新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアム 内藤事務局長

日本電気株式会社玉川事業場 中山主幹

事務局：小池事務局長、金井事務局課長、石井事務局課長、矢口事務局課長 他

コアメンバー：味の素株式会社 内山氏

富士通株式会社 池田シニアマネージャー

株式会社ホリプロ 須之部副部長

説明者：議案第1号関係 富士通株式会社 藤原氏

（敬称略）

1 開会

2 報告

報告第1号：提案型募集事業について

報告第2号：実行委員会参画団体主催事業・パートナー主催事業に関する取組状況について

報告第3号：協賛状況について

一事務局より資料1、2、3を用いて説明

【内藤委員】

提案型事業は2件採択されましたが、今後、追加の採択の御予定はあるのでしょうか。

【石井担当課長】

記念事業期間である令和6年度中の実施となるため、これから募集をしてもスケジュール的に難しいことから、基本的にはこれ以上は募集しない予定です。

【浅岡幹事長】

私も審査員として関わりました。理想としては、予算額いっぱいまで事業を採択したい思いがありましたが、様々な観点から議論し、現在の事業数となりました。今から急遽、事

業を企画しても付け焼刃的な内容で、補助金ありきのようなものになってしまうため、再度募集をかけるのは難しいと思います。

【内藤委員】

採択されたこの2件は着目点がよく、いい取組だと思うので、ぜひ成功していただければと思います。

3 議 事

議案第1号：「脱炭素」プロジェクトについて

ープロジェクトメンバーの藤原氏より資料4を用いて説明

【浅岡幹事長】

今回は実証実験の第一段階という御説明でしたが、今後、モデル事業創出の予算はどのようなイメージでしょうか。

【説明者（(藤原氏)）】

本モデル事業は、高津区の下作延という地区に限定し、そこで再配達を減らす取組を実施していきますが、予算がどれほど掛かるかはまだ見えていないところがあるので引き続き検討していきたいと思っています。

【浅岡幹事長】

資料では年間予算が示されていましたが、今のところついていない予算でざっくり分配というのは可能なのでしょうか。

【小池担当部長】

市としても、記念事業期間後の令和7年度以降の取組について考えていく必要があります。市として継続してフォローしていくかどうかとも議論していきたいと思っています。

【浅岡幹事長】

例えば先ほどの提案型募集事業でも予算が残っていますが、実行委員会予算を使い切るのではなく、記念事業終了後もこういった事業に回すことはできるのでしょうか。

【小池担当部長】

実行委員会予算については、本実行委員会をいつ解散するかも含めて、セットで考えていきたいと思っています。

【浅岡幹事長】

来年度以降にどの程度予算を回せそうか、また、今後事業者からの協賛金もあるのかと思いますので、実証実験の期間が短いという気がしますが、データを取っていただければと思います。

【小池担当部長】

どれほどの事業費を使えるのか、今年の6月あたりを目処にまとめていきたいと思います。

【大西委員】

本事業は、社会課題としても大きな問題に挑戦しますし、自治体も含めた取組においては割と大きなプロジェクトになってきますので、全国的にもリーディング的な取組になっていくのかなと期待をしています。実証実験である本事業について、予算規模としてはそこまで大きくないので、まずはミニマムでやってみて、それが実証実験になって今後に生かされるという考え方だと思いますが、これで足りるのか、また、今後どういった戦略でいくのかなど気になりますが応援をしています。

【説明者（藤原氏）】

全市民の意識変容についてはなかなか難しいと思っていますが、その前提で、本モデル事業では例えば現在、案として出ているものとして玄関前に置く簡易宅配ボックスを配付するなど出ていますが、これは市民の意識変容を促すのではなく、再配達がないよう受け取れる仕組みをつくるというもので、意識変容を促しつつも、それ以外に荷物を受け取れる仕組みについても構築することが本事業のミッションだと思っています。また、最近では国交省が「ちびまるこちゃん」を使つての再配達削減の広報をやられていますが、広報についてはかなりの費用がかかりますので、今回はこの400万円を有効的に使うための施策として、ラッピングであったり、利用者特典などに使っていきたいと考えています。

【内藤委員】

資料に出ているPUDOのラッピングの箇所は、大別すると駅、商業施設、宅配所、公共施設といった4つのカテゴリーに分けられていると思いますが、このカテゴリーごとの効果について、例えばラッピングによる視認効果なのか、利用者特典が有効だったのかなどについて分析していただければと思います。

【浅岡幹事長】

アンケート調査等も実施するとありましたが、そういったデータについても収集してもらおうといいですね。

【内藤委員】

既存のPUDOに対して行うので、現時点での利用率は把握できると思うので、本取組によりどういった効果があったのか分析していただければと思います。

【説明者（藤原氏）】

多角的な視点による様々な調査を行い、効果検証をしていきたいと思っています。

議案第2号：みどりの共創プロジェクトについて

—事務局より資料5を用いて説明

【浦山委員】

資料の「poets on the liquid」については、聞いてすぐに意味が分からなかったので、子どもたち含め、多くの人に分かりやすい表現にさせていただくと思いました。前回の幹事会から、内容が進んでいいなと思いました。グロウガーデンということで、緑を見るだけでなく、食べる方で楽しむというのも大事だと思うので、様々な生産者の方々がこういった取組に入ってもらえるようなハブになっていただけたらいいのではないかと思います。

【大西委員】

資料にあるように、3月に実証実験した結果を受けて4月のトラックガーデンやグロウガーデンに昇華させるのかと思いますが、その辺りを教えていただければと思います。

【矢口担当課長】

3月23日の実証実験に参加された方々には、スマホ等でのアンケートに御協力をいただきたいと考えています。その結果を4月の実施にどの程度反映できるかというところは、もしかしたら難しいかもしれませんが、この先も続けていく取組でございますので、御意見を活かせるようにしていきたいと思っています。

【大西委員】

アンケート項目はどういったものがあるのでしょうか。

【矢口担当課長】

トラックガーデンとその周辺にワークショップやお店を点在させますので、こういったものを実際に知っていましたかとか、こういった取組がどういうところにあるといいでしょうかなどについて、アンケートをとりたいと考えています。

【大西委員】

広域でコミュニティを創出みたいなことも本事業のコアになる部分だと思いますが、コミュニティづくりは川崎において非常に重要な課題だと思うので、こういった視点も入ってくると非常に効果的な事業になっていくと思います。

【中山委員】

5月のグロウガーデン・スタートアップについてですが、まずは3か所で始めるということですが、SUPERNOVAは川崎駅のすぐ近くなのでアクセスがいいのですが、あとの2つはアクセスしづらい場所にあるなと感じました。選ばれた理由は为什么呢。

【矢口担当課長】

橘公園は武蔵新城駅からバスで10分ほどのところ、千年のほうもバスで同じくらいの距離にありますが、遠方から公共交通機関を用いて来ていただくというより、まずはその地域から同心円状に、こういった取組を知っていただくという意味では、市の中央部の住宅地の中で始めることにも意味があると思っています。現在管理者と、こういった考えで進めていくことで同意を得て進めているところです。

【中山委員】

スタートアップということは、来年度中にはさらに他の区にも広げていく予定ということでしょうか。令和6年度はこの3箇所だけですか。

【矢口担当課長】

参加している団体が、現在少しずつ増えておりますので、また別の場所にも広がっていくのではないかと思います。現時点でお約束できるものではないのですが、そういった取組を市として期待しているところです。

【中山委員】

一般市民の方が気軽に、例えば菜園や庭園だとかの庭いじりに触れられる貴重な機会だと思いますので、ぜひ広げていっていただけるといいなと思いました。

【向田委員代理（田尻）】

事業全体のステップについて質問ですが、今年度、来年度でトラックガーデン、グロウガーデンを活用して緑の共創を手がけられるということで、資料にある事業のステップによれば、「play green」の実現になるかと思いますが、令和7年度までやる上で、ある程度、初期の目標を達成されたら緑の創出に関する事業というところを終えて、次のステップに行かれるのか、それとも継続的にこれらの取組をコミュニティ創出の一環として続けられるのでしょうか。

【矢口担当課長】

本取組は、ステップ1.5のところですが、公園以外の場所で公園らしい取組をしていくという意味ではステップ2に差しかかっているようなところもございます。

次のステップに進んだらトラックガーデンをやめてしまうということではなく、どの手段がコミュニティ醸成に大きくつながっていくかを試しながら進めていく考えでございます。

【浅岡幹事長】

本事業のステップ4というのは、いつぐらいを想定していますか。

【矢口担当課長】

まだ、3月23日のスタートを切れていないのでこの時点では何年後と明確に言えません

が、現在この共創プロジェクトを通じてスポーツ団体の方々にも取組に関心を持っていただき始めていますので、今後も引き続き、実行委員会参画団体の皆様や、関心を持っていただく方が増えるほどステップ4の実施に至ると思います。今年度、来年度の取組を進めながら、また御報告させていただきたいと思います。

【浅岡幹事長】

目指すところは、市民活動のクラブ化というビジョンがあり、そこについてはできるだけ早期に実現を目指すという意味合いで、この100周年期間のうちにできるだけステップを進めたいというイメージでしょうか。

【矢口担当課長】

はい、この100周年の期間に本取組をしっかりと育てていきたいと思っています。

【内藤委員】

あまり利用されていない公園がどこの区にもあると思うので、そういった公園や市内の様々な空き地などをコミュニティ醸成のために活用するためにトラックガーデンなどはかなりいい取組だと思っています。先週末もまちづくり局が新百合ヶ丘の檜山公園でいろいろなイベントを実施していましたが、例えばそこにトラックガーデンが入っていくと、それを見に行くという人が出てくるでしょうから、ぜひ中部地区で成功していただいて、北部、南部と、市内全域に広げていっていただきたいと思います。

【中山委員】

今回の取組は緑化フェアのタイミングで、駅の周りに重点的にトラックガーデンをやるなどの連携も図っていただくといいかと思います。

【矢口担当課長】

緑化フェア開催期間のフェアとの連動につきましても検討を続けていきたいと思っています。

【浅岡幹事長】

今後も続く取組ということで、ぜひ取り組んでいただければと思いますので、よろしくお願いたします。

議案第3号：公共空間を活用した賑わい創出プロジェクト

—事務局より資料6を用いて説明

【大西委員】

昨年参加させていただきましたが、非常にいい取組、チャレンジだったなと思いました。昨年は警察との協議の結果、中央分離帯に柵を高く設けていたと思うので、囲われたような空間になってしまいましたが、もし銀座のような道路を開放的に活用できるならとてもいいなと思いました。昨年も来場者の中にはこの場所が道路だと気づかなかった方もいら

っしゃっらしいので、道路もこういった形の活用ができる、川崎って面白いな、すごいな、と感じてもらえるような取組にできるといいと思いました。参加した個人の感想としても、もし両側車線を止められたらとても素敵な空間になると思いました。昨年培ったノウハウを活かして、実施していただければと思います。

【長瀬担当係長】

この取組は今後も続けていきたいと考えていますので、車道上での準備や撤収をすみやかに行き、なるべく車道を止めている時間を短くしていきたいと思っています。

また、片側3車線だけでなく、両側6車線使うことができれば中央分離帯の柵は必要なくなりますので、そこを目指して空間を広く見せられるイベントにしていきたいと思っています。

【中山委員】

11月3日に実施予定とありますが、雨天とかに備えて予備日だとかは特に設けず、その日、1日限りということでしょうか。

【長瀬担当係長】

まだ具体的な検討はこれからですが、現時点では1日だけの想定です。去年の経験ですと、出演者のスケジュールを2日間押さえるというのがなかなか現実的ではなく、仮に雨天の場合は新庁舎のアトリウムなど屋根のあるところでのミニマムな開催にする方向で検討していく予定です。

議案第4号：Colors, Future! Summitについて

一事務局より資料7を用いて説明

【浅岡幹事長】

去年は本当にすごくいいイベントでしたが、あまり周知が行き届いていないと感じましたので、今回はぜひ広報に力を入れていただき、多くの方たちに参加していただければと思います。

【内藤委員】

別のイベント開催時に広報するなどのイベント間連携も効果的だと思います。新百合ヶ丘の例でいくと、11月16日、17日ですんゆりマルシェをやりますし、この時期は市内各地で様々なイベントを開催するでしょうから、イベント間連携もぜひ図っていただければと思います。また、10月12日、13日には麻生区民まつりがありますので、summitの事前告知等でぜひ連携をさせていただければと思います。

【荻本担当係長】

ありがとうございます。summit開催後に行われるイベントとの連携については、どういったことができるか検討していきたいと思っています。

【大西委員】

今回の出張型で実施するというのはいいと思いました。ただ、コストについて、昨年と比較してどの部分をカットしていくのが気になっています。規模の大きいイベントですので、これくらいの経費は必要なんだろうと理解していますが、思ったよりカットされていない印象はありました。

【荻本担当係長】

現時点では、出張カンファレンスは7回ほどで計上しています。もちろん、これは予算額6,000万円規模で計上していますので、例えば、予算額が5,000万円ほどになった場合に出張カンファレンスの回数を減らしていく必要はあると思っています。

【大西委員】

できる限り7回実施して、各区で1回ずつ開催できるといいですね。

また、アーカイブ配信は必要かと思いますが、ライブ配信についてはニーズはどの程度あるのでしょうか。例えば、大型のフェスだと会場の至る所で同時開催していて、時間帯が重なった場合はスクリーンがあれば同時視聴が可能なので一定程度ニーズはあると思いますし、にぎやかしという意味で、summitを市役所のあたりで開催していることを周知できるということもありますが、恐らくライブ配信は費用がかかると思いますので、その費用対効果についてはどの程度見込んでいるのでしょうか。

【荻本担当係長】

ライブ配信は2つの意味合いで考えています。1つは、西口と東口の会場とをお互いに見せ合えるので、あっちに行こうかなという誘引のツールです。もう一つは、Summitのアーカイブは、カンファレンスを撮影することはできるんですけども、当日の映像を網羅的に撮影するチームがないため、記録としても、後日皆さんに見ていただければなと思って、機動的、網羅的に動ける撮影チームがいた方がいいという観点がありますが、もう少し検討は必要だと思っています。

【大西委員】

最近ではリアルタイムでは視聴せずに、任意のタイミングで視聴する人が増えてきていますので、動画素材として残しておき、アーカイブ配信をすることは必要だと思いますが、ライブ配信については、我々もよくやるのですが割と費用が掛かるので、そこは本当に意味があるのかというところは気にはなりました。

【荻本担当係長】

コストをどれだけ削減するのかについても、今後詰めていきたいと思っています。

【事務局（須之部氏）】

本当は去年も同時配信をやりたいと考えていました。というのは、渋谷のSIWでも、実際に来場できる方はかなり限定されているので、ライブ配信のほうが効果的だというのは

実証されています。事前のSNS等での広報なども行い、市内だけではなく市外も含め、川崎はこんなことをやっているぞというのをもっとアピールしていきたいと思っています。

【大西委員】

アーカイブ配信ではなく、やはりライブ配信なのでしょうか。

【事務局（須之部氏）】

そうですね。そのために、事前のSNS広報などで事前周知すれば、少なくとも数百人単位で視聴していただけたらと思うので、チャレンジしてみたいと思っています。

【大西委員】

数百人を狙うなら、そこを目標に費用対効果が出るようぜひ検討をお願いします。

【事務局（須之部氏）】

SNS広報の費用対効果も含めて、現在検討しています。

【荻本担当係長】

最終的に赤字になるようでしたらカットしなければならないと思っています。

【浅岡幹事長】

ライブ配信はあまり凝らず、シンプルに流しておくだけにするなど、費用対効果を考えていただければと思います。

【大西委員】

予約システムについては昨年のもを用いるので費用に入っていないということでしょうか。

【荻本担当係長】

昨年は当初費用に入っていませんでしたが、今回は入れています。

【大西委員】

さらにシステム開発が必要ということでしょうか。

【荻本担当係長】

ランニング費用として200万円程度計上しています。

【浅岡幹事長】

予算の部分については特に御意見がありましたので、その辺りを考慮しながら、ぜひいいものにしていただければと思います。

議案第5号：かわさき飛躍祭について

一事務局より資料8を用いて説明

【浅岡幹事長】

1億7,000万円の収入がほぼチケット収入だと思いますので、チケット販売の売上状況が一番気になる場所ですね。

【宮下担当係長】

そうですね。市民の方にまだまだ届いてない部分があると思いますので、関係するフロンターレやKTPとともに、いろいろな形で広報していきたいと思っています。

【浅岡幹事長】

100フェスの最大来場者数はどのくらいでしょうか。

【宮下担当係長】

キャパは1万5,000人以上です。

【小池担当部長】

実行委員会メルマガの方でも案内させていただきます。企業内、団体さんの中でもいろいろPRしていただけるとありがたいです。

【大西委員】

収支的に赤になった場合は実行委員会側の負担はどうなるのでしょうか。

【宮下担当係長】

実行委員会は決められた額の負担金として支出していますので、それ以上の支出はありません。

【浦山委員】

ぜひ市外からも来ていただきたいですね。

【金井担当課長】

現時点では川崎市民、SHISHAMOさん、sumikaさんのファンクラブに加入している方しかチケット購入できませんが、3月15日からは誰でも購入が可能となります。タイミングを見極めながら、全部売り切る方向で、やっていきたいと思っています。

議案第6号：市制100周年記念事業実施計画改定版（案）について

一事務局より資料9を用いて説明

【浦山委員】

2－9の②の公害の記載の箇所が気になりました。昔は公害があったがそれが改善されて、現在に至るという流れがありますが、公害が始まりではなく、京浜工業地帯として川崎が日本の高度成長期を支えるために役に立っていたところから記載した方がいいかと思いました。

【浅岡幹事長】

どのように公害を乗り越え、川崎の環境技術がどれだけ進んでいるかというのもアピールしていただきたいなと思います。

【内藤委員】

ご説明の中で、7月の山と、11月の山と、様々なイベントが実施されますが、単体のイベントではなく、すべて記念事業として繋がっているという全体像を見せながら進めていただくといいなと思います。

【浦山委員】

100周年を盛り上げるマインド醸成のために、時系列で効果的な広報を打ち出していき、だんだんと盛り上げていくというリズムづくりみたいなものも考えていただくと面白いかなと思いました。

【内藤委員】

コンセプトの「知って、関わって、好きになる」はすごくいいし、いろんな取組がそこから展開できると思うので、これだけでも絶えず出していき、これは知るイベントなんです、これは関わるイベントなんです、参加するイベントなんです、これは将来のことを考えているイベントなんです、好きになってもらうイベントなんです、といったようにいろいろ展開方法はあると思うので、最初のコンセプトを言い続けることというのが大事なかなと思いました。

【小池担当部長】

様々なご意見ありがとうございます。現在、ありがたいことに市民等の主催事業として様々なところから、我々のところもこんなのをやるから皆さんに発信してほしいだとか、そんな話も出てきております。川崎の至る所でこんなことが起きているというのを知っていただくいい機会となりますので、皆様のご意見を踏まえまして、効果的な広報を検討していきたいと思います。

議案第7号：令和6年度事業計画（市制100周年記念事業）（案）について

議案第8号：令和6年度収支予算（市制100周年記念事業）（案）について

一資料10、11について事務局より説明、承認

4 その他

実行委員会第4回総会について
今後のスケジュールについて
—資料12、13について説明

5 閉会

以上